

在庫が増えないように在庫管理したい

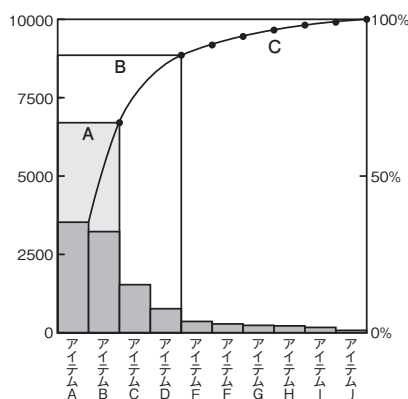
Q. 放任すると不良在庫や長期在庫が増えてしまう。在庫管理はどうすればよいか？

要旨 一般的に、調達、生産、販売の各現場部門では、在庫を多く持った方が業務を楽に回すことができるため、放っておくと在庫量はどんどん増えていく傾向にあります。在庫を適正量に保つためには、在庫基準を設定したうえで、在庫基準を狙った生産、発注を行う業務運用を行います。

解説

1. ABC 分析による重み付け

品目を出荷数量（もしくは出荷金額）順に並べ、出荷数量（金額）とその累計をパーセンテージで集計し、グラフに表します。一般的に約 2 割の品目が全体の 8 割を占めると言われています（パレートの法則）。品目を A、B、C ランクに分けて、例えば A ランクは重点的に手間をかけて在庫管理を行う、B ランク品は簡易的な在庫管理を行う、C ランク品は手間をかけずに機械的に在庫管理を行います。在庫管理する品目にメリハリをつけて、余計な手間をかけずに最大限の効果を上げるようにします。



〔ABC 分析例〕

2. 在庫基準を“期間”で設定する意義

製品（材料）在庫は生産（受入）されたら増加し、売れたら（消費されたら）減少

するということに、量が増減します。在庫基準は、このうち狙うべき在庫の最大量です。在庫基準を数量で設定すると、需要が増えた時には過少に、需要が減った時には過多になってしまいます。在庫基準を“期間”で設定することで、需要に合わせて常に適正な在庫基準を保つことができますようになります。業務で運用するうえでは、販売実績数や販売予測数に在庫期間を掛けることで、在庫基準となる数量を計算します。表計算ソフトや、情報システムで自動計算させることで、常に最新の在庫基準（数量）を把握することができます。

3. 在庫管理の業務運用

経営者がリーダーシップを取って、在庫基準を狙って生産（発注）することを明確に宣言することが必要です。特に販売、生産の各部門では、在庫が減りすぎると業務運用が厳しくなるので、在庫を減らす誘引が働きません。重点的に管理する A ランクの品目については、今後の需要予測をもとに関係部門で情報共有しながら、在庫基準を狙って適正な生産（発注）量を決めるようにします。

適切な在庫管理の方法

＜ご提案のポイント＞

- ・ご提案の実行により、あるべき在庫管理の考え方を理解し仕組み化することで、無駄な在庫を減らすことができます。
- ・まずは、在庫を保有することによるメリット、デメリットを明確にします。
- ・ABC 分析を行い、重点的に在庫を管理する品目を設定します。
- ・在庫基準を“期間”で設定して、在庫責任者を明確にして業務を運用します。

1. 適正在庫の意義

まずは、在庫を保有することによるメリット、デメリットを整理して、在庫を適正化する意義を共有します。製品在庫を保有すると、納期の短縮や欠品による販売機会ロスを減らすことで、売上が向上するメリットがあります。また、材料在庫を多く保有することは仕入れコストの低減や、製造ロットまとめによる製造コストの低減にもつながります。反面、在庫が多すぎると製品の陳腐化による価値の下落や、売れ残りにより製品が無駄になることがあります。また、在庫金額分のキャッシュが固定化することで、キャッシュフローの悪化につながります。

2. 重点的に在庫管理する品目を設定する

全ての品目を同列に在庫管理を行うと、管理の手間が増えてしまいます。品目の出荷金額、もしくは出荷数量を調査して ABC 分析を行い、ランク付けを行います。そして、重要度が高いと判断した品目（例えば A ランク品）について、在庫管理を厳密に行う業務ルールとすることで、管理の手間が増えることと在庫削減のメリットのバランスを取るようになります。

3. 在庫基準の設定と在庫責任の明確化

在庫基準とは、品目ごとに狙うべき在庫量のことです。この在庫基準を数量ではなく、期間（何日分、何カ月分）で設定します。在庫基準を“1 カ月”と設定した場合、その製品の 1 カ月の需要数量が狙うべき在庫数になります。こうすることで、需要の変動に合わせて柔軟に狙うべき在庫数を変動させていくことができます。

そして、在庫数量に責任を持つ部門を明確にして、在庫基準を狙って生産量や発注量を設定します。製品（材料）在庫に関連する部門は、営業、生産、調達等多岐にわたります。このうち、営業部門では欠品の防止、生産部門ではロットまとめによる生産の効率化の目的で在庫を多めに持とうとすることが多いです。営業部門、生産部門にも在庫責任を負わせて、関係者で情報共有をしながら生産量や発注量を決定していきます。